

若者が創る未来の菊川

～高校生ふるさとセミナー～



「若者の力で地域を元気に」と、市内高等学校との連携協定に基づき実施している「高校生ふるさとセミナー事業」。未来の菊川市を担う人材の育成や若者の郷土愛を育むことなどを目的に、高校生が地域の課題を主体的に捉え、講義やフィールドワークなどをおして解決策を創り上げていく事業です。今回の特集では、事業を通じて企画を創り上げる苦勞、実際に行動することの大変さ、多くの人を前に発表する勇氣など、多くの経験を重ねた高校生の取り組みをご紹介します。

問い合わせ 企画政策課政策係 (☎35-0900)

Problem

地域活性化のカギは

「若者の郷土愛」

地域の元気は若者から

進行する少子高齢社会と人口減少。企業や店舗が減少し、地域から活気が失われていくこの問題は、菊川市にとつても他人事ではありません。日本各地でさまざまな取り組みが進められていますが、地域の活気に欠かせないのは「若者の力」です。

市では、平成27年に策定した「菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「郷土愛を育むまち」を基本施策の一つに掲げ、若者が地域の良さを認識し、地域づくりに主体的に参加する機会づくりに取り組んでいます。

活気あふれる地域を目指して

こうした中で、若い世代の発想力や行動力を生かし、活力あふれる地域社会の創出に努め、誰もが幸せに暮らせるまちづくりを進めるため、平成28年2月に県立小笠高等学校（以下、小笠高校）、同3月に常葉大学附属菊川高等学校（以下、常葉大菊川高校）と包括的な連携協定（フレンドシップ協定）を締結しました。

協定の内容は、相互の資源を有効に

活用することにより、教育や人材育成、まちづくりの推進、地域産業の振興などの分野で連携・協力すること。この協定に基づき、平成28年度から取り組みを始めたのが「高校生ふるさとセミナー事業」です。

両校で特色ある活動を展開

事業の目的は、高校生が地域について学び、考え、そして見えてきた課題の解決策を創り上げる過程をおし、将来の菊川市を担う人材を育成すること。また、活動する中で、地域の自然や文化的な魅力を発見し、地域住民との関わりから郷土愛を育むことを目指します。この目的に沿って、両校で特色ある取り組みが展開されています。

小笠高校では、「地域の課題を考える教科連携課題研究」と題し、総合学料であることを生かして、教科の枠を超えた課題解決型学習を実施しています。今年度は、課題研究を受講する生徒（商業・国語・数学系列の3年生）25人が、近年注目を集めているサイクリングイベントを高校生の視点で企画し、菊川市の魅力を発信しようという活動しました。